

会 議 録

会議名	平成17年度第7回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会	
開催日時	平成18年2月28日(火)午後2時00分から3時30分	
開催場所	宇都宮市役所 14A会議室	
出席者	<p>【委員】 大貫隆久, 工藤正志, 諏訪利夫, 塚田典功, 赤塚朋子, 中尾久 佐々木英明, 廣田宏子, 結城笑子, 柿沼光子, 熊本範夫, 手塚修 大石千絵, 斎藤武夫</p> <p>【事務局】 橋本宇都宮市環境部長, 他24名</p>	
公開・非公開	公開	
傍聴者数	なし	
議題	<p>1. 審議事項 一般廃棄物処理基本計画について【答申】 (1) 一般廃棄物処理基本計画に関するパブリックコメントについて (2) 一般廃棄物処理基本計画における答申案について</p> <p>2. 報告事項 平成18年度一般廃棄物処理実施計画(案)について</p>	
会議結果	議題1 (1)	事務局の報告のとおりとする。
	議題1 (2)	原案のとおり, 答申する。
	議題2	事務局の報告のとおりとする。

議題 1, (1) 審議事項

一般廃棄物処理基本計画に関するパブリックコメントについて

事務局から説明

発言要旨【議題 1, (1)】

一般廃棄物処理基本計画に関するパブリックコメントについて

大石委員	・コメントの件数について、5名の方から11件の意見をもらったとあったが、これは他のパブリックコメントの件数に比べ、多いのか。
事務局	・パブリックコメントの件数は、どの案件についても少ない状況で、本計画案に寄せられた件数は、比較的多いほうである。

議題 1, (2) 審議事項

一般廃棄物処理基本計画における答申案について

事務局から説明

発言要旨【議題 1, (2)】

一般廃棄物処理基本計画における答申案について

中尾委員	・計画案に掲載されているコラム欄について、長期的な展望という視点から考えると、口ハスについて記載してもよいのではないかと考える。
事務局	・可能であれば付け加える方向で、検討していきたいと考える。
塚田委員	・生ごみ等資源化技術の導入について、計画案に「バイオガス化」という文言を記載した意図は、どのようなところにあるのか。
事務局	・バイオガス化については、さまざまな生ごみ等資源化技術のなかで、動向が大きい代表的な例として、示したものである。
塚田委員	・バイオガス化は、効率性の観点から、さほどよいものではないと聞いている。本市に適した技術を考えていくうえで、バイオガス化を計画案に盛り込むほど重要視するものとしてよいのか。
事務局	・生ごみ等資源化技術については、今後の動向などをふまえ、本市に適した技術を見極めていきたいと考える。計画案に「バイオガス化」という文言を盛り込むかどうかも含めて、再度、検討していきたいと考える。

大石委員	・コラムのなかのマイバッグについて、環境負荷や普及効果のほかに、マイバッグを使うことで自分にとって利点があるということを取り上げた方がよいのではないか。
事務局	・検討していきたいと考える。
斎藤委員	・コラムのなかのごみ有料化について、ごみの減量効果のほかに、負担の公平化についても盛り込んだ方がよいのではないか。
事務局	・検討していきたいと考える。
赤塚委員	・コラムのなかのディスポーザーについて、文章の表現が曖昧な印象なのだが、どのような観点からコラムとして盛り込んだのか。
事務局	・計画案には、ディスポーザーを中長期の施策として盛り込んだが、さまざまな課題も残されていることから、コラムのなかで効果的な面とそうでない面を含めての表現となった。 ・コラムのなかで、高齢者のごみ出しの負担軽減とあるが、障害者の方々にも同じことが言えるので。「高齢者」という文言を「高齢者等」に変更したいと考える。
工藤会長	・ディスポーザーについては、効果的な面とそうでない面があるので、計画案のとおり、中長期の施策として盛り込み、技術動向などをふまえ、検討していけばよいと考える。
諏訪委員	・ディスポーザーについては、課題をすべてクリアしたら、すぐに導入していくのではなく、課題を継続的に見極めながら、段階的に実施していけばよいのではないか。そのような考えもふまえ、計画案において、コラムなどで取り上げることはよいことであると考え。
工藤会長	・各委員から出された意見を参考にしながら、文章の精査を検討してほしいと考える。
工藤会長	・それでは、あらかじめ配布した原案のとおりでよろしいか。
各委員	・異議なし
工藤会長	・一般廃棄物処理基本計画について、原案のとおりとする。

議題2 報告事項

平成18年度一般廃棄物処理実施計画(案)について

事務局から報告

発言要旨【議題2】

平成18年度一般廃棄物処理実施計画(案)について

諏訪委員	<ul style="list-style-type: none"> 保存版ごみの分け方・出し方について、各世帯に配布したことに対する効果はどのようなものだったのか。また、それらの効果を参考に見直しなども検討していった方がよいのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 保存版ごみの分け方・出し方については、平成16年3月に各世帯に配布し、効果としては、平成16年度のごみ量が減ったことが挙げられる。また、地域での講習会なども開催し、市民の方々に理解を深めてもらっている。 現在は、アパートなどの居住者に配布してもらうため、不動産管理業者に訪問し、協力をお願いしているところである。
赤塚委員	<ul style="list-style-type: none"> 市外からの転入者に対して、配布はしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 転入の手続きの際に、配布を行っている。また、転入者には学生も多いことから、大学などに出向いての説明会も実施している。
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 保存版ごみの分け方・出し方に、リユースの観点から、不用品の引き取り施設などの紹介を盛り込んだ方がよいのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 検討していきたいと考える。
熊本委員	<ul style="list-style-type: none"> 資源物の持ち去り防止について、職員によるパトロールの実施があるが、どのような体制で実施しているのか。また、常習者に対し、実際に告発したことを含め、効果はあったのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 条例改正に伴い、昨年9月よりパトロールを含めた周知活動を実施した結果、昨年11月から今年1月にかけて、資源物の回収量が倍になった。今後も、通報の情報をもとに、持ち去り者の出没時間を見計らいながらパトロールを実施していきたいと考える。また、来年度は、定期的にパトロールを実施する班と、多発する地域を重点的に取り締まる班を編成したいと考える。 告発については、現在のところ、そこまでには至っていないが、常習者9件に対して警告を行ったところである。手順として、警告、禁止命令、告発となるが、告発まで至らない段階で防止できるような対策を講じていきたいと考える。
大貫委員	<ul style="list-style-type: none"> 条例改正に伴い、車両ナンバーなど、通報者からの情報を十分に整理して、取り締まりの強化に努めてほしいと考える。

大貫委員	・資源物持ち去り防止の看板について、ごみステーションにどれくらいの割合で掲示されているのか。
事務局	・ごみステーションは市内に約12,000ヶ所あり、資源物持ち去り防止看板は、自治会長やリサイクル推進員を通じて、各自治会に必要な数を配布している。現在のところ、掲示のお願いをして要望があったのが、全自治会数の約8割であるが、実際に掲示していない可能性もあるのではないかと考える。
工藤会長	・資源物の収集車につけるステッカーについて、市の許可が必要なマークなどをつけ、偽の収集車と区別できるような工夫が必要なのではないかと考える。
事務局	・検討していきたいと考える。
大石委員	・キャッチフレーズとして、「宇都宮りんごダイエット作戦」とあるが、これではごみの減量と結びつきにくく、誤解を与える恐れがあるのではないかと考える。
事務局	・インパクトを重視した結果、このようなキャッチフレーズとなったが、誤解を与えないよう表現の仕方を工夫しながら、周知していきたいと考える。
大石委員	・保存版ごみの分け方・出し方について、表紙に問い合わせ先の電話番号が3つ記載されているが、「ごみ110番」のような総合窓口をつくった方が市民には分かりやすいのではないかと考える。
塚田委員	・大石委員の言うとおり、市民に分かりやすい番号を設定し、窓口の一本化を図った方がよいと考える。
事務局	・保存版ごみの分け方・出し方の表紙には、3つの電話番号が記載されているが、ごみについては、それぞれの部署で幅広く答えることができるので、問い合わせても、全く分からないということがないように体制を整えていきたいと考える。